

事 務 連 絡
平成 26 年 10 月 10 日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
専務理事 矢ヶ崎 忠夫

豚流行性下痢（PED）ワクチンの 10 月以降の供給について

このことについて、平成 26 年 10 月 2 日付け事務連絡をもって、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課薬事監視指導班課長補佐から別添のとおり通知がありました。貴会関係者にも周知方よろしくお願ひいたします。

このたびの通知は、豚流行性下痢（PED）ワクチンの今後の供給について、10 月に約 44 万回分（日生研製）、12 月に約 49 万回分（日生研製：11 万回分、化学及血清療法研究所製：約 38 万回分）の出荷が予定されており、第 3 四半期までに約 286 万回分が出荷されることとなるとともに、来年 1 月以降も順次出荷を予定していることについて、本会会員及び関係者へ周知と、ワクチンの円滑な供給に向けて協力を依頼されたものです。

併せて、別添のリーフレットを活用し、ワクチンの特徴を理解した上で適切に使用するよう、ワクチンの正しい使い方についても養豚農家等に周知するよう依頼されております。

本件のお問合わせ先

公益社団法人

日本獣医師会事業担当：笹川

TEL 03-3475-1601

事務連絡
平成26年10月2日

各都道府県動物衛生主管課長 宛
別記 関係団体 宛

農林水産省消費・安全局
畜水産安全管理課 薬事監視指導班課長補佐

豚流行性下痢（PED）ワクチンの10月以降の供給について

豚流行性下痢（PED）のワクチンについては、「豚流行性下痢（PED）ワクチンの円滑な供給に係る協力依頼について」（平成26年5月1日付け26消安第588号消費・安全局畜水産安全管理課長、動物衛生課長通知）、及び「6月以降に供給される豚流行性下痢（PED）ワクチンの円滑な供給に向けた協力依頼について」（平成26年5月21日付け事務連絡）によって、円滑な供給に御尽力いただいているところです。

ワクチン供給については、四半期ごとに情報提供してきたところですが、今後の供給については、10月に約44万回分（日生研製）、12月に約49万回分（日生研製：約11万回分、化学及血清療法研究所製：約38万回分）の出荷が予定されており、第3四半期までに合計286万回分が出荷されることとなります。来年1月以降も順次出荷を予定していますので、関係者へ周知いただくとともに、今後とも、ワクチンの円滑な供給に向けて御協力願います。

また、PEDによる養豚農家の経済的被害を防止するためには、ワクチンの特徴を理解していただいた上で適切に使用することが大切です。別添のリーフレットを活用し、ワクチンの正しい使い方についても、併せて周知いただくよう御協力願います。

【問い合わせ先】

畜水産安全管理課薬事監視班 小牟田、金子
（内線）4531 （直通）03-3502-8701
yakuji_kanshi@nm.maff.go.jp



別記 関係団体

公益社団法人 中央畜産会
協同組合日本飼料工業会
全国農業協同組合連合会
全国畜産農業協同組合連合会
一般社団法人 日本家畜商協会
一般社団法人 日本養豚協会
日本養豚事業協同組合
一般社団法人日本SPF豚協会
公益社団法人 日本獣医師会
日本養豚開業獣医師協会
公益社団法人 日本動物用医薬品協会
一般社団法人 全国動物薬品器材協会
一般社団法人 日本畜産副産物協会
全国精麦工業共同組合連合会
全国食肉センター協議会

豚流行性下痢（PED）ワクチンの使い方

特徴

- 妊娠豚に2回注射することで、分娩後、**乳を飲んだほ乳豚**の発症を防いだり、症状を軽くすることができます。

使い方

- 用法・用量を守って、**分娩前の妊娠豚に2回注射**します。
- 子豚や肥育豚にワクチンを注射しても効果はありません。

効果

- 本ワクチンは過去に国内で流行したウイルスを使って開発されました。試験の結果、平成25年10月以降、**国内で流行しているウイルスにも効果**が認められています。



ワクチンの効果を十分に引き出すには、

- 衛生管理の徹底（こまめな消毒、排せつ物処理など）により、**農場にウイルスを入れない**、あるいは**ウイルスの量を減らす**ことが重要です。
- ワクチン接種を受けた**母豚の乳に抗体**が含まれます。**子豚に乳をしっかりと飲ませてください**。
- 母豚がPEDに感染したり、健康管理が良くないと乳を十分に出さないことがあります。分娩舎に持ち込まれるウイルス量を減らして、**母豚の重症化を防ぐとともに、健康管理に気をつけましょう**。

